



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために  
2011-2012年度 国際ロータリーのテーマ

尾張旭ロータリークラブ

Weekly

・会長 西尾 輝久  
・幹事 森 和実  
・会報 福岡 健  
・事務局 尾張旭市商工会館 TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945  
E-mail : owariasahi@mte.biglobe.ne.jp  
URL : http://www.owariasahi-rc.jp/

本日 第2012回 2012年5月25日(金) No. 1901

本日のプログラム Today's Program

卓話者:伊豆原 浩二 君

点 鐘

演 題:「都市交通の研究と実務」の

ロータリーソング「四つのテスト」

45年を振り返って」

前 回 第2011回 2012年5月18日(金) 記 録

○齊 唱:「我等の生業」

○ゲスト:天理教名古屋大教会

会長 森井 晴生様  
独立行政法人 労働者健康福祉機構  
旭労災病院事務局長 大友 万様

○来訪者:該当者なし

○出席者:会員30名中24名出席 出席率80.00%  
前々回補正出席率は4月27日分96.67%

によってPHが変化したり唾液が存在すること、又異種金属の接触というように金属がイオン化しやすい大変な過酷な環境にあります、その結果体内で抗原抗体反応が起こり抗体を獲得すると再度、抗原と接触することによりアレルギー症状を現わすというものです。今後ますます増加すると思われますので、心配な方は一度愛知学院大学口腔金属アレルギー外来へ受診される事をお勧めします。

## 会長あいさつ

西尾 輝久

口腔金属アレルギーについて話してみようと思いません。身につける装飾品として指輪、ネックレス、ピアスなどがありピアスの流行で金属に対する感作率が増大し、アレルギー性接触皮膚炎になる方がかなり見られるようになった。感作率の高い元素はニッケル、水銀、クロム、コバルトなどであるから、そういう人は口腔内や皮膚に湿疹やただれ等の症状を呈する事がある。口腔内ではそれらの金属を使用するため毒性や催奇性があるのではなく、科学的にも安定していなければならない、又物理的にも安定していなければならない。そして歯科治療に使用される薬剤、材料はすべて厚生省の薬事審査を通過したもので安全と言われるものであります。そこで歯科用金属によるアレルギーについて、最初に報告されたのは1928年のアマルガムに含まれた水銀による口内炎と、肛門周囲炎の皮膚炎だと言われております。その後1960年にクロムとニッケルによる歯肉炎、1972年には扁平苔せんも見つかかり、その後いろいろな金属が原因で湿疹、紅斑など多くの新事実が報告されるようになった。口腔内は食物

## 幹事報告

- ・本日の3分間スピーチ:松下 洋一君
- ・5/11 第14回現・次期理事役員会 於商工会館 西尾会長以下10名出席
- ・本日の会合:第3回現・次期OFDY委員会
- ・次回の会合:第5回現・次期クラブ協議会
- ・例会変更のお知らせ:別紙

## ニコボックス

- 旭労災病院事務局長 大友様の卓話を楽しみにしています。 桜井 雅博君
- 本日、旭労災病院事務局長からお話させていただきます。 勝屋 弘忠君
- 旭労災病院事務局長 大友 万様本日はよろしくお願ひいたします。 井田 武憲君
- 加藤 清久君、森 和実君、山田 直樹君
- 天理教名古屋大教会 会長 森井晴生様をゲストにおまねきいたしました。 大野 良之君
- 森井晴生様ようこそいらっしやいました。ごゆっくり

### ロータリー親睦活動月間

	6月 1日(金)	6月 8日(金)	6月 15日(金)	6月 23日(土)
例会予定	卓話者:仲澤 昌容君 演 題:「自己紹介」	卓話者:飯田 幸雄君 演 題:「ロータリー あれこれ」	クラブフォーラム 卓話担当者:例会運営委員会 卓話者:加藤 清久君 演 題:「一年を振り返って」	22日(金)振替 夜間例会 於 南風尾張旭店

りして行って下さい。  
 ○ゲストをお迎えできて。  
 ○福岡さん、2000回記念例会の集合写真のアルバム作成、ご苦労様でした。  
 ○所用のため、本日の委員会を休ませていただきます。よろしくお願いたします。

西尾 輝久君  
 飯田 幸雄君  
 古橋 裕志君  
 舟橋 龍秀君

## 第3回現・次期OFDY委員会報告

日時 2012年5月18日(金) 13:40～  
 場所 尾張旭市商工会館 例会場  
 議題 1) 東北ボランティア活動について  
 名古屋産業大学・名古屋経営短期大学の学生の参加が未定のため、事業の見直しも含め再検討する。  
 2) 次年度のOFDY事業として、市内3中学校合同演奏会(H25年1月26日に尾張旭市文化会館にて開催予定)に楽器の搬送費など、支援することを了承した。また、旭野高校ブラスバンドおよび尾張旭合唱団の参加も、運営担当に提案することを確認した。

## 卓 話

卓話テーマ「尾張旭ロータリークラブに期待すること」  
 —地域との良好な循環を目指して—

独立行政法人労働者健康福祉機構  
 旭労災病院事務局長 大友 万

・旭労災病院の沿革について



当院は、地元関係業界及び労使団体の社会的要請を受けて、厚生労働省(旧労働省)と機構の前身の労働福祉事業団が窯業地である瀬戸市に隣接する尾張旭市の丘陵地に、じん肺専門医療機関として昭和35年6月に設置された。爾来、市内唯一の公的病院として、尾張旭市の急速な都市化による地域住民のニーズにこたえるため、専門病院から総合病院への転換を図り、昭和55年から昭和62年にかけて総合化に向けて増改築工事を実施し、昭和63年に13診療科の300床の総合病院となった。

平成16年に「独立行政法人労働者健康福祉機構旭労災病院」に移行し、結核病床50床を廃止。現在は、呼吸器病センター、アスベスト疾患ブロックセンター等を設置し、17診療科、250床で、地域医療とともに、政策医療として職業性疾患の予防をはじめ、労働災害による被害者の治療からリハビリテーションに至る一貫した勤労者医療を確立しております。

・愛知県の尾張東部医療圏保健医療計画、地域医療再生計画等について  
 急性心筋梗塞等循環器医療対策の治療病院として、また、急性消化管出血、多発性障害については、公立陶生病院、愛知医科大学、藤田保健衛生大学病院とともに高度救命救急医療機関として位置づけられているところです。

・地域医療について

瀬戸旭医師会一次救急医療輪番制に参加し、救急医療に貢献しており、また、病診連携システムにより地域医療に努めております。

・政策医療について

呼吸器病センター、アスベストブロックセンターを設置し、東海地区の中核施設となっています。また、勤労者医療総合センターを設置し、勤労者医療の支援窓口として「地域医療連携室」、じん肺、アスベストの職業性疾病研究のための「労災疾病研究室」、過労死予防対策等による「勤労者予防医療部」の体制整備を行い、働く人々の暮らしと健康に関する専門的医療や予防医療を実践しています。

・増改築工事について

増改築予定計画として、現地建替え、250床の総合病院、H25年度着工～H29年度竣工を予定しており、現在、基本・実施設計作成中。病気でなくとも気軽に立ち寄れる病院として地域の人がコミュニケーションを取れるスペースを検討しています。より良い地域との良好な循環を図ることに資することを目的としております。

・今後の課題として、当院の立地している都市計画法上の市街化調整区域の撤廃(上下水道等のインフラ整備)、現在果たしている機能の公平な評価として二次救急医療機関の指定、市民病院的機能への適正な評価をお願い申し上げます。

・地域との良好な循環を目指すにあたって、横山 禎徳氏の著書「循環思考」による「社会システム・デザイン」を「医療システム」としてデザインする場合について引用して少しご紹介申し上げます。医療の中核問題として、「患者、医師、保険者の三者間でお互いのやり取りを通じて自然に自己規律が働くメカニズムができあがっていない」ことがあげられる。現場感覚の欠けた改革実施が三者の不満と無力感を増すことになりがちであり、「悪循環」となっている。マスメディアの医療に関する報道もバランスを欠いている(福島県立大野病院事件)。従前の旧来型事業対応の発想から、社会システム発想に代わってという、壊したり、削ったりするのではなく「組み立てる」アプローチが重要。健康な一市民の間に医師と知り合うことで「良循環」を作れないかが課題ではないか。コミュニケーションの場を作り、医師と健康人である市民との医療に関する話題で対話する機会の増加という形でインフォーマルな「良循環」を形成していけるのではないか。そのためには「削る改革」ではなく、自己規律を増すことで生産性の向上という逆説的な「良循環」ができ、秩序ある経費増の評価体系が可能。医療システムへの資金提供が増えていく「良循環」が必要。「良循環」を駆動するサブシステムとしては「医師と一般市民、医師と医師が出会い交流するサブシステム」「医療基金を収集・蓄積・運用・配分するサブシステム」「新たな公的機関によるADR等の支援サブシステム」等が必要、と提言しております。

・旭労災病院の理念として、最善の医療サービスを最高の善意と人間愛をもって、とさせていただいております。今後も地域に貢献していける病院として益々努めていくこととしておりますので、尾張旭ロータリークラブにおかれましては、当院の課題としている点につきまして宜しく御理解御支援を賜りたいと存じます。